

平成26年度こんにゃく原料需給実績

(単位:精粉20kg/袋)

項目 年度(26.11~27.10)	需 要 量 (消費量)	供 給 量					期 末 在 荷 量
		期初在荷量	国内生産量		輸入量	供給量合計	
			生産量	春切り量			
計算式	a=f-g	b:前年実績	c:実績	d:前年並	e:実績	f=b+c+d+e	g:注2参照
原料(国内・輸入)数量実績 (前年度実績)	286,100 295,700	149,000 148,200	247,500 269,300	5,000 5,000	26,800 22,100	428,200 444,600	142,000 149,000
製品 輸入数量実績 (前年度実績)	32,200 37,500	0 0	0 0	0 0	32,200 37,500	32,200 37,500	0 0
合計 (前年度実績)	318,300 333,200	149,000 148,200	247,500 269,300	5,000 5,000	58,900 59,700	460,300 482,200	142,000 149,000
前年比(%)	95.5%	100.5%	91.9%	100.0%	98.7%	95.5%	95.3%

注1)ラウンドしているため加減があわないことがある。

注2)算出方法は以下のとおり。なお、②、③及び⑥は平成26年度こんにゃく原料需給実績から変更している。また、生産量、在荷量に関しては平成27年度からの計算方法の変更に伴い21年度まで遡って再計算しているため、今回作成の平成26年度こんにゃく原料需給実績と前年度までの作成の数値とは連続しない。

①原料需要量は、供給量から期末在荷量を差し引いた、286,100袋とした。

②期初在荷量は、平成26年度在荷量調査を基に⑥と同様の方法で算出した26年度の期末在荷量149,000袋とした。

③生産量は、当協会が推計した平成26年産生産量(58,701トン)から算出(58,701×1,000×歩留(8.431%)÷20kg=247,456)し、247,500袋とした。

④春切り量は、平成26年度需給計画とほぼ同じであったので、5,000袋とした。

⑤原料輸入量は、1次関税枠(110.0トン)及び2次関税枠(425.5トン)の輸入量(535.5トン)から算出(535.5×1,000÷20kg=26,775袋)し、26,800袋とした。

⑥期末在荷量は、平成27年度在荷量調査を基に、全こん連調査結果の合計期末在荷量に対する合計買入量の比率(41.7%)を全国製造業者の期末在荷率とみなし、これに全国製造業者の買入量(国内生産量(春切り量を含む)+原料輸入量+全農・全原協の在荷増減量=281,227袋)を乗じて算出した全国製造業者期末在荷量117,245袋に、全農及び全原協の調査結果の期末在荷量合計24,802袋を加えて142,000袋(117,245+24,802=142,047)とした。

⑦製品輸入数量は、輸入量(21,222トン)から、精粉換算(製品倍率33倍)で算出(21,222×1,000÷33÷20kg=32,155袋)し、32,200袋とした。